

韓国における日本観の変容

徐 賢燮 (ソ ヒョンソプ)

長崎県立大学国際交流学科前特任教授

韓国人の日本についての意識には、長い韓日関係の歴史における文化的・精神的優越感、それに被害意識・現実的劣等感などが入り交じっている。韓国人の伝統的な日本観を表すキーワードとしてあげられるのは「倭」である。韓国の国語辞典を見ると「倭」に関連する派生語は、倭寇、倭国、倭奴、など30余個に達するが、「日本」に関しては、日本料理、日本脳炎、日本風など、数個に過ぎない。伝統的「倭」の語彙は中國史書に由来したもので「矮小で野蛮である」というニュアンスも漂わせる。昔、韓国人が分析的に日本を把握したものではなく、中華文明というプリズムを通じて日本を理解し判断した一面があるために、韓国人の考えている日本と、実際の日本の間には相当のギャップが存在したと思われる。とりわけ、現在の日本の実際の姿を把握するには、何よりも普遍的、客観的な見方を取るべきだ。今後、未来志向的な関係を構築するためには、韓国と日本が互いに相手に対する Disregard, Distrust, Dislike の態度から Dis を取り除いて Regard, Trust, Like へ発展させようとする真摯な努力が求められる。

日時: 2014 年 4 月 23 日(水) 18:30~20:30

場所: 法政大学市ヶ谷キャンパスポアソナードタワー25階 B会議室
司会: 王 敏 (法政大学国際日本学研究所専任所員、教授)

参加申込: 以下アドレスの申込専用フォームからお申込ください

<https://www.event-u.jp/fm/10385.html>



法政大学国際日本学研究所
nihon@hosei.ac.jp <http://hijas.hosei.ac.jp/>
TEL 03-3264-9682 FAX 03-3264-9884

